

# 平成30年度 アゴラセミナー Ib 「災害被災地における復興過程の把握と分析」

大阪市立大学 大学院 生活科学研究科 生田 英輔

## はじめに

1995年1月17日の阪神・淡路大震災から24年を経た兵庫県神戸市で、フィールドワークを実施した。24年という年月でまちの様子は大きく変化し、復興は順調に進んでいたようにも見えるが、一方で、産業・商業の復興や住宅問題等、未だ解決できていない課題も多い。そこで、都市計画の視点から震災復興における市街地再開発事業や地区画整理事業の現場を、当時の行政担当者とともに歩き、災害からの復興を通じて地域再生を学ぶフィールドワークを企画した。2019年1月13日に実施。

## ①鷹取地区

JR鷹取駅を起点にまち歩きがスタート。駅北側は震災後に工場が移転し、高層マンションや商業施設が立ち並んでいる。人通りは多くなく、発展途上のまちに見えた。駅南側は震災の時には大規模な火災があった為、震災後に建てられた住宅が立ち並んでいる。区画整理で道路拡幅等が行われたそうで、その時の苦労をお聞きした。

## ②新長田地区

復興シンボルとして駅前に巨大な鉄人28号が立っている。駅前には人通りも多く、商店街も活気があったが、震災後の再開発事業で建設されたビルの中に入ると閉店している店も多かった。少し歩くと、昔ながらの市場があり、最近は多国籍の住民も多いということで、アジア料理の店が市場内にあり意外だった。



## ③震災メモリアルパーク

メリケンパークの一角にある、震災時のまま保存されているメリケン波止場を見学。メリケンパークは多くの観光客で賑わっていたが、震災遺構を見に来ている人は多くないようだった。

## ④旧居留地

明治時代に外国人が多く住んでいた地域で、百貨店や高級ブランド店が軒を連ねる。震災で倒壊したものの復元された建物や、外観はそのままに建物裏で耐震補強している建物等を見学。最近では旧居留地にも高層マンションが増えているようで、まちの雰囲気が変わってきている。

## ⑤東遊園地

「1.17の集い」の会場となる公園。旧生田川の埋立による段差も確認できた。公園の一角には常時火が灯っている「1.17希望の灯り」や震災で亡くなられた方の名前が刻まれたモニュメントが設置されている。

## ⑥KIITO

KIITO（デザイン・クリエイティブセンター神戸）は、1927年建設の神戸市立生糸検査所の建物を利用した施設であり、かつての神戸の貿易の一端を垣間見ることができた。ここで、震災時に神戸市職員であった方から、震災時の状況、復旧・復興、防災についてのレクチャーを受けた。

## ⑦六甲道地区

JR六甲道駅の南側と北側を見学。駅南側は集合住宅、商業施設、公園があり、その計画を担当された方からレクチャーを受けた。計画にあたっては多くの住民と会合を持ち、計画を練り上げていったそうで、当時話し合いをした住民の方も一緒にお話を聞くことができた。駅北側は低層住宅が並び落ち着いた印象だった。所々に大小の公園があり防災に配慮されていた。

### <訪れた場所>

- 鷹取地区
- 新長田地区
- 震災メモリアルパーク
- 旧居留地
- 東遊園地
- KIITO
- 六甲道地区

### <出会った人>

- 神戸防災技術者の会
- 神戸大学教員
- 人と防災未来センター研究員
- 六甲道地区の住民の皆さん